

あるエンジニアの夢

「教員になって、ソーラーカー部をつくりたい!」と話すのは教育学科2年生です。ソーラーカー工場のエンジニアたちはほとんどが工学部の学生です。しかし彼は、この中に混じり、所属学部が制作とは無関係だということを身を持って証明してくれます。「……玉川教育の“百聞は一見に如かず、百見は一労作に如かず”の労作教育は、身を以って体験させてくれるソーラーカーづくりそのものです。文字どおり、全て自分たちでやらせてくれるし、大学生が高校生を教えることも玉川学園らしいことです。」と張り切っています。



彼が特に任されている仕事は、大手メーカーのミシュランから借りたタイヤの管理や調整です。どのくらい偏摩耗が起きたのかなどを随時記録しレポートを書いて提出し、その結果はソーラーカーの調達などに利用しています。